

保育計画成果報告書

法人名等	有限会社 朱華
施設名	ぽかぽか保育園おてんとさん
報告者（役職）	松本 和恵（保育士）
住所・連絡先	千葉県千葉市緑区あすみが丘 1－38－1 2F
	☎ 043－312－3813
	E-mail pokapoka-hoiku@otentosan.co.jp

○タイトル（保育計画）

ぽかぽかの庭～太陽(おてんとさん)の下で～

○主な助成備品

ウッドマウンテン、木製すべり台

1. 保育計画策定の目的

ぽかぽか保育園おてんとさんは、千葉市の認可保育園として、定員40名の小規模保育園で平成30年4月に開園しました。太陽(おてんとさん)のように、ぽかぽか家庭的な保育と子どもの「育つ」を育む、養護と教育の一体的な取り組みを理念とし、子どもの思いに寄り添いながら、一緒に笑い、一緒に喜び、一緒に学ぶ保育を目指しています。

本園は園庭がなく、近隣の公園を利用しています。公園は地域の方達も利用する場であり、遊びの環境を確保することが難しく、遊びを中断しなければならないことが多くありました。子ども達が遊び方を工夫したり、考えたり、五感に働きかけたりと、遊びを発展させることが十分できない状況に保育環境の課題を感じていました。

“ぽかぽか保育園の子ども達が思いきり遊べる場所を作ってあげたい”

見るとワクワクしてすぐに遊びたくなる自分達の遊び場、自分達の保育園の遊具の設置、いつでも元気いっぱい伸び伸びと遊べる環境、「明日も続きの遊びをしようね」と、友達とつながりを大切にしながら、安心感をもって遊べる居場所を作ってあげたいという思いから、保育計画を策定し、この度の助成を申請いたしました。

2. 具体的な実施内容

園庭の場所を確保

園よりほど近い場所に、同じ会社の放課後保育事業(キッズクラブおてんとさん)を開設し、その庭を使用できることとなったため、そちらに遊具の設置を検討しました。

遊具を設置

〈すべり台〉

見るだけでも楽しみになるカラフルな遊具、早くすべりたくて張り切って階段を上ります。階段をしっかり上る脚力やすべり台をすべるバランス感覚などの運動能力が楽しみながら身につき、何と云ってもすべり降りる瞬間に得られる「楽しい」「怖い」という興奮は、脳の発達を促します。「もう1回!」と何度でも繰り返し遊び経験を重ねることで、スピード調節を覚え、安全に対する感覚も育ちます。



また、すべり台の下スペースを使って、子ども達が大好きな“ごっこ遊び”も始まりました。砂場で作ったアイスやケーキを持ってきてお店屋さんごっこで遊んだり、家に見立ててのお家ごっこで遊んだり、イメージを膨らませ、共有し合いながら遊ぶ姿も見られます。ルールや決まりがあることに気づき社会性が身についたり、人と関わるのが楽しいと思えたりと、子ども達の心が育つ遊びも十分に展開できます。

ある日、このスペースを“秘密基地”にした遊びが始まりました。(写真3)

「秘密基地に必要な物は何かな?」と探索し、落ち葉や木の実を集めてきて基地の材料にしました。また、食べ物も用意し始めました。遊具を拠点にしながら、自然の中での遊びには、多くの好奇心を満たす体験ができるようです。



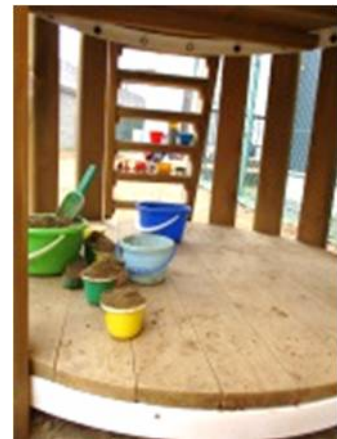
(写真1) お家ごっこ

今ね、ごはん作ってるの!



(写真2)

あら! もう帰ってきたのね!



(写真3) 秘密基地

秘密基地の材料探し中...

〈ウッドマウンテン〉

ウッドマウンテンは登ることで身体(体幹)を鍛えることができます。また、登る時に“登り方を考える姿”が見られました。「どこをつかもうかな?」「足はどこに乗せようかな?」と考え、集中し登りきろうとします。更に、うまく登れない時に「なぜ、登れ

ないのかな？」と考えます。どうしたらできるか、次はどうしようと、登り方を頭の中で考え思い描くことで思考力が身につきます。

全身を使って登りきった頂点では、子ども達が満面の笑みで「ヤッホー！」「見て見て！先生より大きいよ！」と嬉しそうです。



ウッドマウンテンの間には、魅力的な三角のスペースがあります！もちろんこの場所も、様々な遊び場になっています。子ども達の想像力や発想力には驚きの毎日です。



【警察署に見立てて警察ごっこ】



【ホテルごっこ 靴も脱いじゃった！】

遊具の設置に合わせ、砂場・ステップ・鉄棒を設置

園庭に他の遊具も設置しました。

開いている場所に芋苗を植え、芋掘りも体験できました。



【砂場】



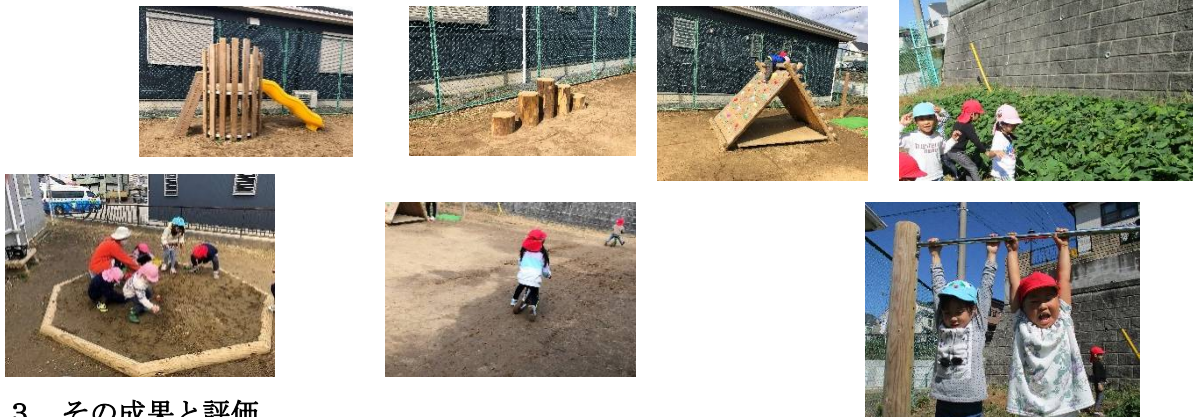
【ステップ】



砂場の設置により、ままごと遊びがすべり台下の場所を使つてのごっこ遊びに発展するなど、遊びが更に広がりました。

ステップの設置をすべり台とクライミングの間にしたため、すべり台→ステップ→クライミング遊びができ、アスレチック感覚の遊びもできるようになりました。

鉄棒の設置により、特に5歳児が前回りや逆上がりに挑戦することもできました。



3. その成果と評価

- ・すべり台やウッドマウンテンという遊具があることで、各遊具が子ども達の身体的な試行錯誤を促すとともに、必要なルールの共有やイメージの共有など、遊びに広がりが見られました。
- ・自分達の遊びの場があることで、安心感をもちながら、友達や保育士と心のつながりをもって遊び、楽しむことができるようになりました。更に、広場でストライダーや縄跳び、鬼ごっこなどの遊び、夏はプール遊び、秋には芋掘りなどの活動を取り入れることもできました。
- ・近隣の公園も利用しながら、様々な遊具や遊びの場、遊び方の選択が多様になるようになりました。また、活動の内容や遊びの様子から、保育計画を明確に立案することができるようになりました。
- ・保育士は、様々な遊具を用いて遊ぶ機会が増えたことで、子ども達の身体諸機能の発達を確認しながら保育をすることができるようになりました。

4. 今後の課題と展望

- ・子ども達が何に興味をもち、どんな遊びがしたいのかというワクワクポイントを探り、保育環境の設定、見直しをしながら、保育環境の一部である保育士のかかわり方も振り返っていきたいと思います。
- ・保育士が子ども達を“遊ばせる”保育ではなく、子ども達が思い思いに遊びたい遊びがすぐに始められる環境の中で、豊かな自然に囲まれて成長できる保育を目指したいと考えています。

以上